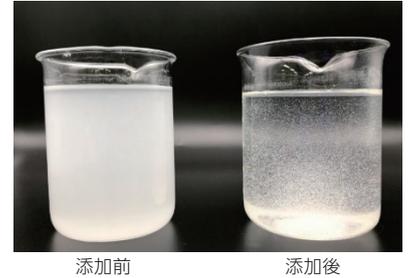


JWWA認証品 無機凝集剤 エバグロースP-070

エバグロースP-070は、浄水処理において優れた処理性を発揮するアルミニウム系の凝集剤です。適合原水においては、pH調整剤の削減効果や処理水質の向上、残留アルミニウム濃度の低減など、様々な効果が期待されます。施設の運転管理も行う当社では、お客様の原水性状と処理フローに沿った最適な薬剤の運用方法をご提案致します。

模擬原水による凝集状況



1 『エバグロースP-070』の特長

1 優れた除濁性・有機物除去性

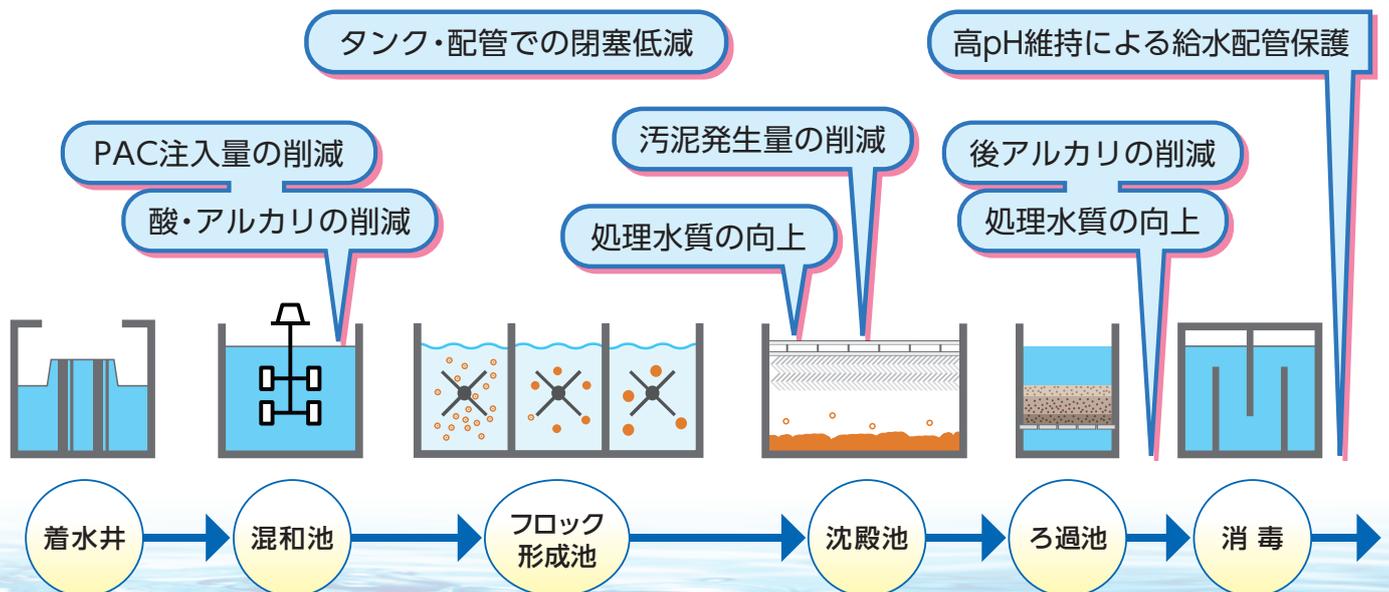
2 高pH領域においても安定した処理性

3 残留アルミニウムの低減

4 析出障害の低減

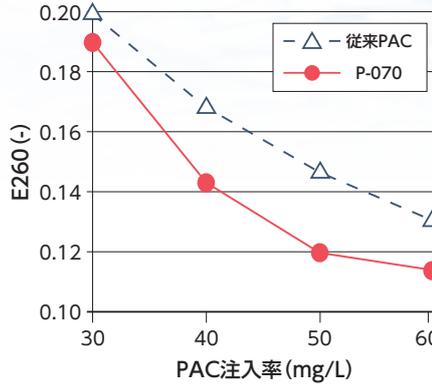
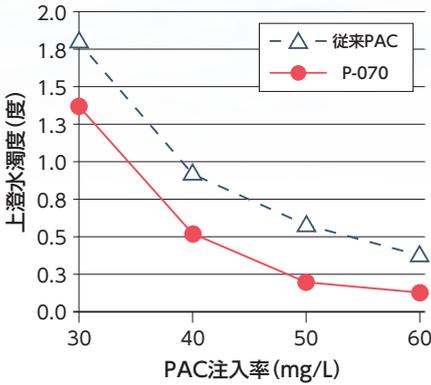
製品規格	エバグロースP-070	JWWA K154-2016
比重(20℃)	1.19以上	1.19以上
Al ₂ O ₃ (%)	10.0~11.0	10.0~11.0
塩基度(%)	67~75	45~75
pH値(10g/L溶液)	3.5~5.0	3.5~5.0

2 フロー各ポイントでの導入効果



1 優れた除濁性・有機物除去性

優れた荷電中和力で原水中の懸濁物質を凝集し、少添加率でも高い効果を発揮します。



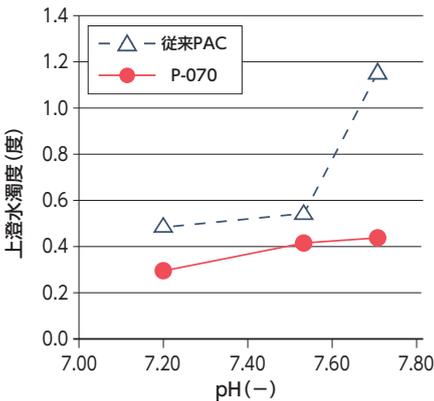
原水	水温	pH	濁度	E260
表流水	7.0	8.6	35	1.13

試験条件
 pH条件: 硫酸で凝集pH8.0に調整
 PAC注入率: 30~60mg/L添加
 攪拌条件: 急速120rpm×2分、
 緩速60rpm×10分、静置10分
 濁度: 静置後の上澄水を測定
 E-260: ろ過水のE260を測定

※紫外線吸収度(E260)とは
 水に含まれる有機物の量を表す。特に塩素と反応してトリハロメタンなどをつくる有機物の量として評価される。

2 高pH領域においても安定した処理性

従来PACや硫酸バンドでは凝集力が弱くなる高pH領域においてもP-070は凝集力を維持出来ます。その為高いpH領域での安定した処理により、酸・アルカリの中和剤の削減が期待できます。



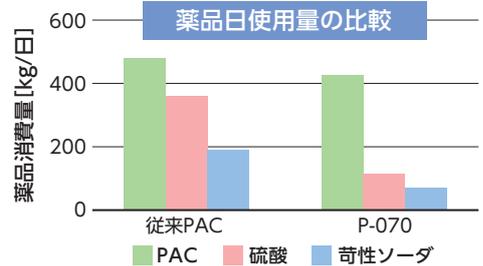
原水	濁度	pH	アルカリ度
表流水	78	7.2	13

試験条件
 pH条件: 苛性ソーダで凝集pH7.2~7.7に調整
 PAC注入率: 60mg/L添加
 攪拌条件: 急速120rpm×1分、
 緩速45rpm×10分、静置10分
 濁度: 静置後の上澄水を測定

P-070による薬品使用量削減例

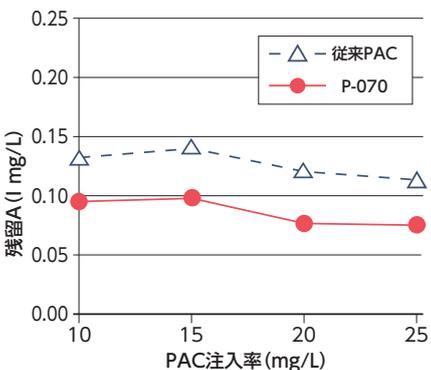
従来PACからP-070へ切り替え約4ヵ月間の実機試験を行った結果、処理水質を同等以上に保ちながら、薬品の合計使用量を4割削減出来ました。

試験条件
 原水性状: 表流水 pH7.7~9.2 濁度7.9~50.8
 凝集pH: 従来PAC pH6.8~6.9 P-070 pH7.5
 PAC注入率: 従来PAC55~80mg/L
 P-070 50~90mg/L



3 残留アルミニウムの低減

従来PACと比較し、処理水の残留アルミニウム濃度を低く抑えることが出来ます。上記試験では、凝集pH8.0前後の高pH領域であってもエバグロースP-070では管理目標値0.1mg/L以下を維持しています。



原水	水温	pH	濁度
表流水	20	7.9	< 1

試験条件
 pH条件: 苛性ソーダでpH8.3に調整
 PAC注入率: 10~25mg/L添加
 攪拌条件: 急速180rpm×3分、
 緩速30rpm×5分、静置10分
 Al濃度: ろ過水のアルミニウム濃度を測定

4 析出障害を低減

従来PACと比較し、高い製品安定性を持ち、タンク内の析出物の低減や配管閉塞リスクの低減に繋がります。

水とPACを2:1で混合
 恒温槽(30℃)で30日保管した際の外観変化

